

---

2019年度 第1四半期決算及び  
2019年度 業績見通し  
説明資料

---

帝人株式会社  
2019年8月2日

- 
1. 2019年度 第1四半期決算の概要 P. 2
  2. 2019年度 業績見通しの概要 P.14
  3. 参考資料 P.18

---

#### 見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

本資料は2019年8月2日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

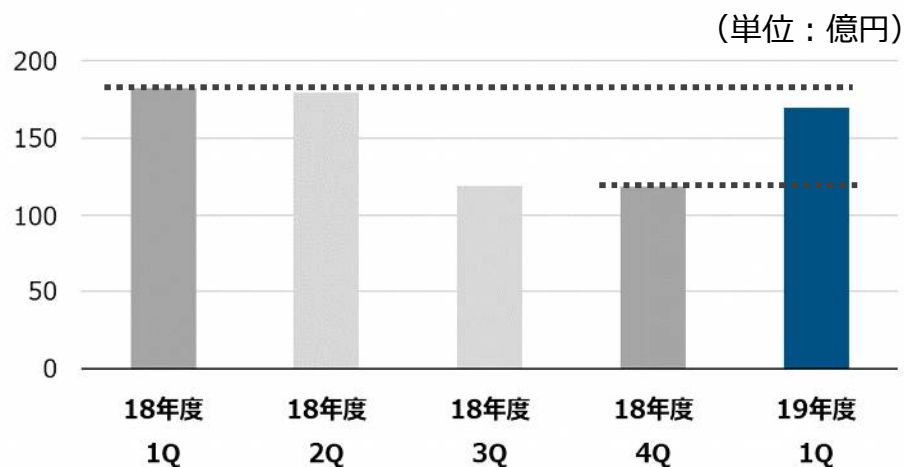
---

# 1. 2019年度 第1四半期決算の概要

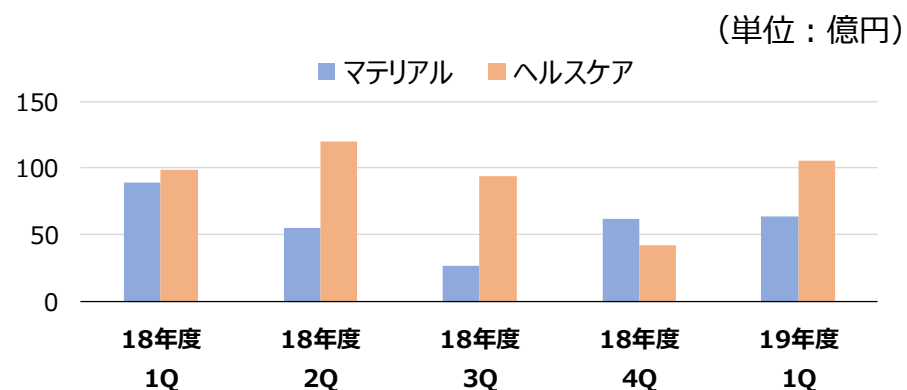
概況:

**第1四半期の営業利益は前年同期比減だが、直前四半期からは大幅回復**

■ 全社営業利益四半期推移



■ セグメント別営業利益四半期推移



マテリアル

- 18年度2Q以降、素材市況が急速に悪化
- 18年度2Q・3Qに低下したCSP社\*の生産性は18年度4Q以降で回復

ヘルスケア

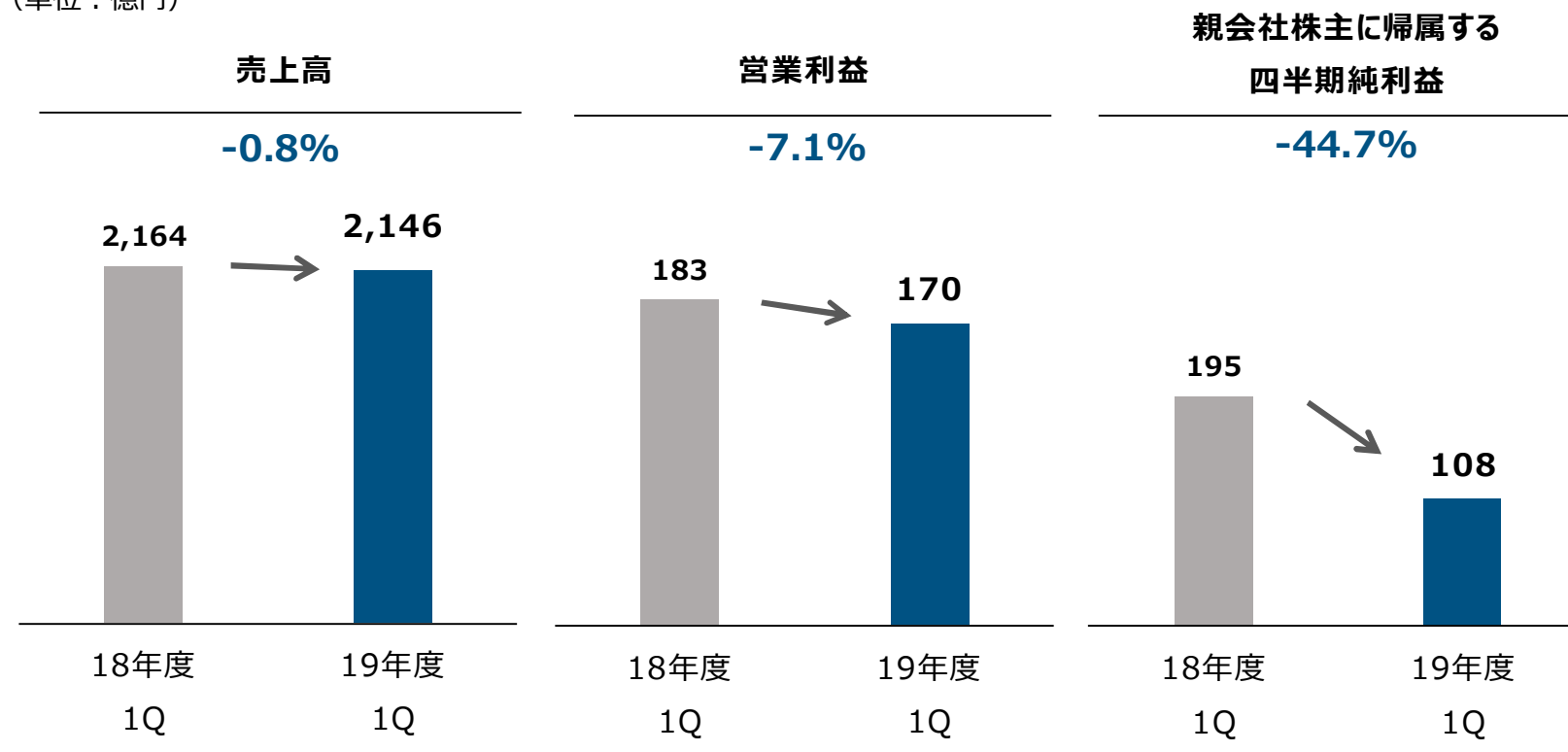
- 販売は一貫して良好
- 18年度4Qは経費が集中

\* 米国子会社のコンチネタル・ストラクチャラル・プラスチック社 (以下CSP)

## 決算ハイライト

- ・ 第1四半期の前年同期対比営業利益は減益
- ・ 営業利益年間見通し\*（600億円）に対する進捗は28%

（単位：億円）



- ・ ポリカーボネート市況が高騰していた前年同期対比で営業利益は減益。アラミド繊維とヘルスケアの好調に加え、CSPの生産性の回復もあり、営業利益の年間見通しに対する進捗は順調
- ・ 営業外損益の為替影響による悪化や特別損失の増加等が加わり、四半期純利益も減益

## ◆ 経営成績

	(億円)			
	18年度 1Q	19年度 1Q	差異	増減率
売上高	2,164	2,146	-18	-0.8%
営業利益	183	170	-13	-7.1%
営業外損益	29	-1	-30	-
経常利益	212	169	-43	-20.4%
特別損益	49	-18	-67	-
税金等調整前 四半期純利益	261	151	-110	-42.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	195	108	-87	-44.7%
ROE <sup>*1</sup>	19.5%	10.6%	-8.8%	
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	11.2%	10.3%	-0.9%	
EBITDA <sup>*3</sup>	299	294	-4	

	(億円)			
	18年度 1Q	19年度 1Q	差異	増減率
設備投資 <sup>*4</sup>	119	140	+21	+17.4%
減価償却費	116	125	+9	+7.6%
研究開発費	83	79	-4	-4.4%

◇19年度1Q前提条件		18年度 1Q	19年度 1Q	差異
PL換算レート	円/米ドル	109	110	+1
	円/ユーロ	130	123	-7
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		72	67	-5

\*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷投下資本」にて算出

(投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

\*1,2は年換算後の数値

\*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*4 設備投資には無形固定資産を含む

## ◆ 営業外損益

	(億円)		
	18年度 1Q	19年度 1Q	差異
受取利息	3	3	-0
受取配当金	12	6	-6
持分法による投資利益	3	4	+1
為替差益	-	15	+15
デリバティブ評価益	29	-	-29
雑収益	4	2	-2
営業外収益 計	50	29	-21
支払利息	8	9	+1
為替差損	9	-	-9
デリバティブ評価損	-	17	+17
雑損失	4	4	+0
営業外費用 計	21	30	+9
営業外損益 計	29	-1	-30

## ◆ 特別損益

	(億円)		
	18年度 1Q	19年度 1Q	差異
固定資産売却益	2	0	-2
投資有価証券売却益	5	37	+32
受取和解金	45	-	-45
その他	0	0	+0
特別利益 計	52	37	-15
固定資産除売却損	2	2	-1
減損損失	1	17	+16
事業構造改善費用	0	34	+34
その他	1	3	+2
特別損失 計	3	55	+52
特別損益 計	49	-18	-67

◆ 財政状態

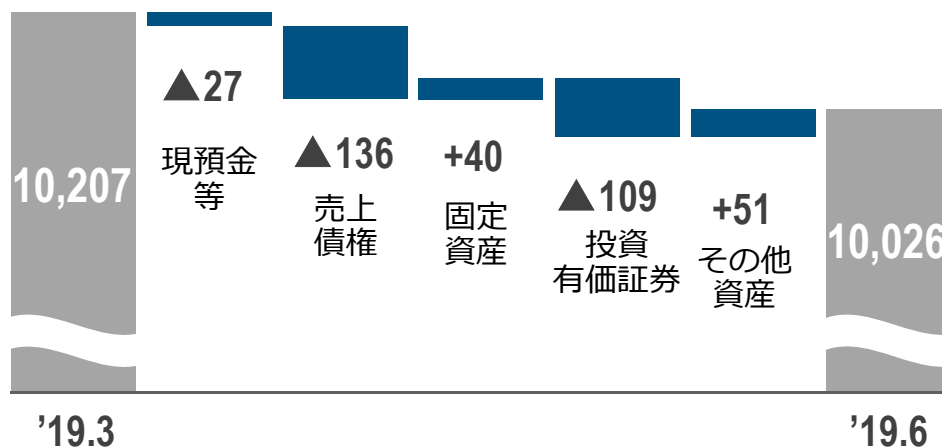
	(億円)			内 為替 換算影響
	19年 3月末	19年 6月末	差異	
総資産	10,207	10,026	-181	-91
負債	5,934	5,860	-75	-28
(内 有利子負債)	3,692	3,743	+51	-17
純資産	4,272	4,166	-106	-63
D/Eレシオ	0.90	0.94	+0.04	-

◆ キャッシュ・フローの状況

	(億円)		
	18年度 1Q	19年度 1Q	差異
営業活動	146	197	+51
投資活動	-122	-125	-2
フリー・キャッシュ・フロー	23	72	+49
財務活動他	268	-100	-368
現金及び 現金同等物増減	292	-28	-319

\* キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

◇ 総資産 増減内訳 (億円)



◇ BS換算レート

	19年 3月末	19年 6月末	差異
円/米ドル	111	108	-3
円/ユーロ	125	122	-2



## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移

(億円)

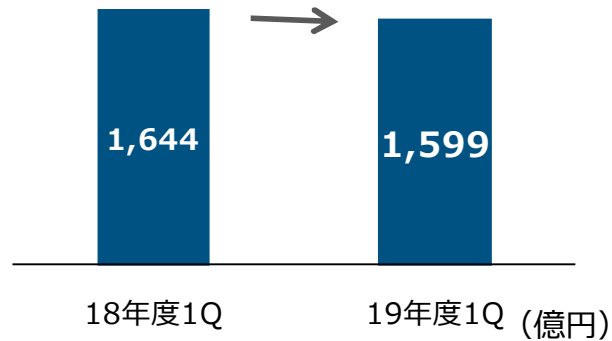
	18年度				19年度	差異	差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	19/1Q -18/1Q	19/1Q -18/4Q
売上高							
マテリアル事業	687	657	628	667	627	-60	-40
繊維・製品事業	738	803	812	831	738	+0	-93
複合成形材料事業ほか	219	217	227	231	234	+15	+3
マテリアル 計	1,644	1,676	1,667	1,729	1,599	-45	-130
ヘルスケア	392	412	397	374	398	+6	+24
その他	128	142	139	187	149	+21	-37
合計	2,164	2,230	2,202	2,289	2,146	-18	-143
営業利益							
マテリアル	90	56	27	62	64	-26	+2
ヘルスケア	99	119	94	42	105	+6	+63
その他	6	19	13	33	13	+7	-20
消去又は全社	-13	-15	-15	-18	-13	-0	+5
合計	183	179	119	119	170	-13	+51

**マテリアル**  
(前年同期対比)

素材市況悪化の中、高機能材料分野で収益確保

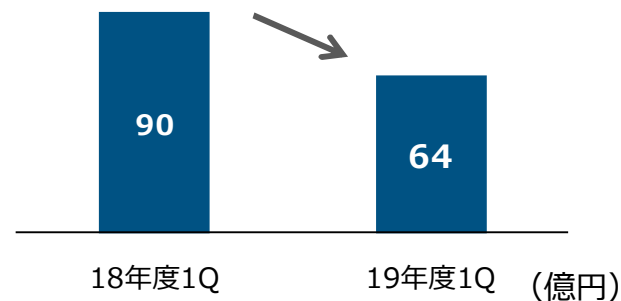
売上高

-2.7%



営業利益

-28.6%



マテリアル事業

- アラミド繊維は売値・販売構成の改善が収益に貢献
- 炭素繊維は米国新工場立上げ関連費用が増加
- ポリカーボネート樹脂は汎用品で前年第2四半期以降の市況価格の大幅下落の影響を受けたが、高付加価値品販売が収益を下支え

繊維・製品事業

- 衣料繊維は国内の市況影響により衣料品製品販売で苦戦したものの、産業資材は短繊維を中心に販売増

複合成形材料事業ほか

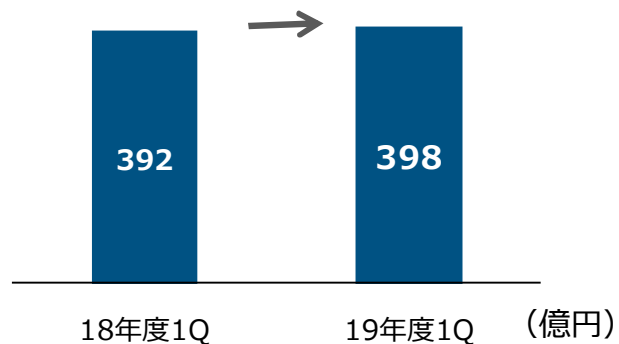
- 北米のピックアップトラック、SUV等の需要増や新規モデルの立上げを背景に、CSPの自動車向け量産部品の販売が増加

ヘルスケア  
(前年同期対比)

「フェブリック」を中心に主力製品の好調を受け増益

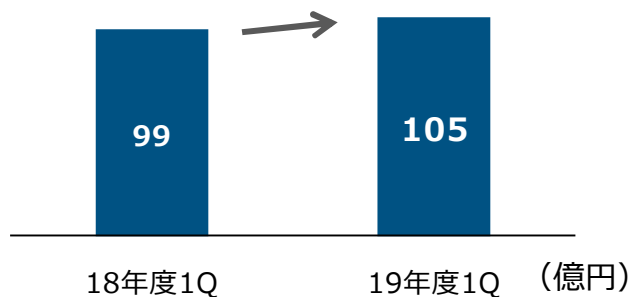
売上高

+1.5%



営業利益

+6.1%



医薬品分野

- 高尿酸血症・痛風治療薬「フェブリック」が順調に販売を拡大

在宅医療分野

- 睡眠時無呼吸症候群治療装置（CPAP）は睡眠評価装置「SAS-2100」の活用等でレンタル台数が伸長
- 在宅酸素療法（HOT）において、携帯型酸素濃縮器を含め高水準のレンタル台数を維持

新規ヘルスケア分野

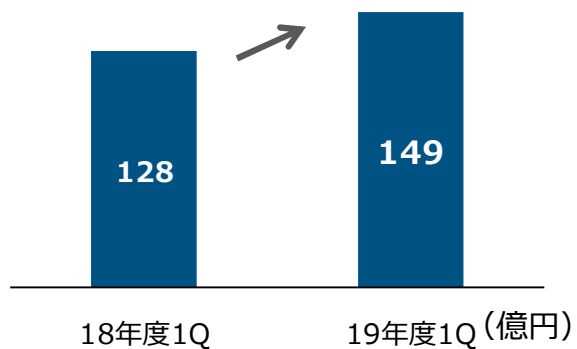
- 埋め込み型医療機器において人工関節や脊椎領域製品が堅調に推移

その他  
(前年同期対比)

IT事業のネットビジネス分野が好調維持で増益

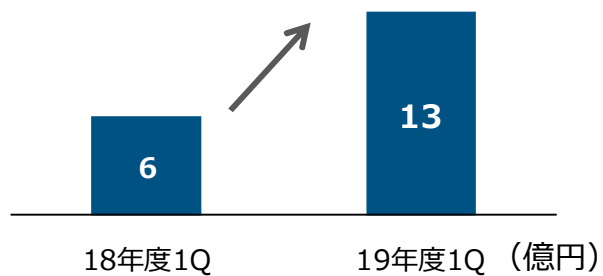
売上高

+16.6%



営業利益

+106.2%

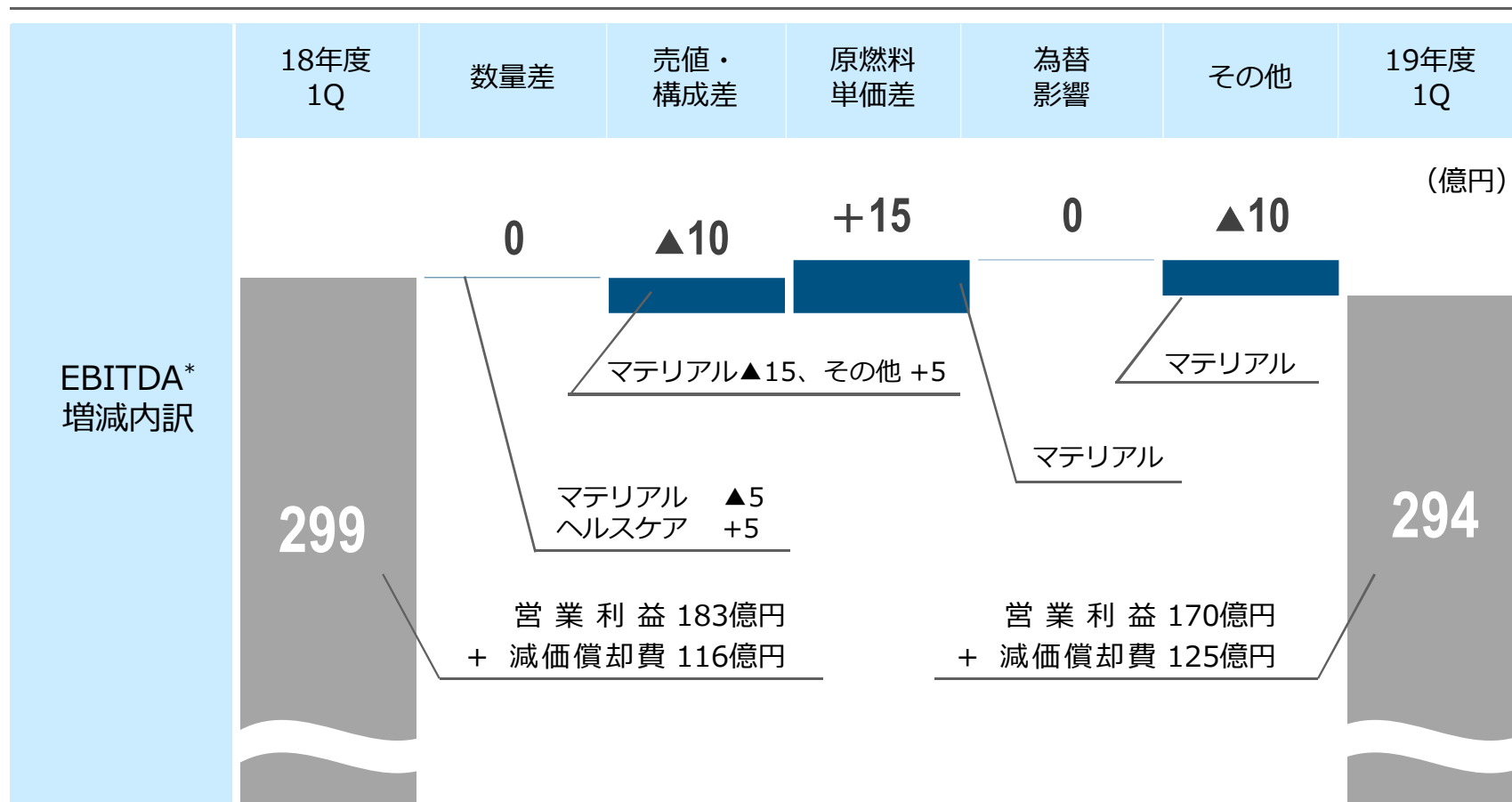


IT事業

- 電子コミック配信サービスが好調
- 病院向けITサービス事業が順調に推移

◆ EBITDA\*増減内訳 (前年同期対比)

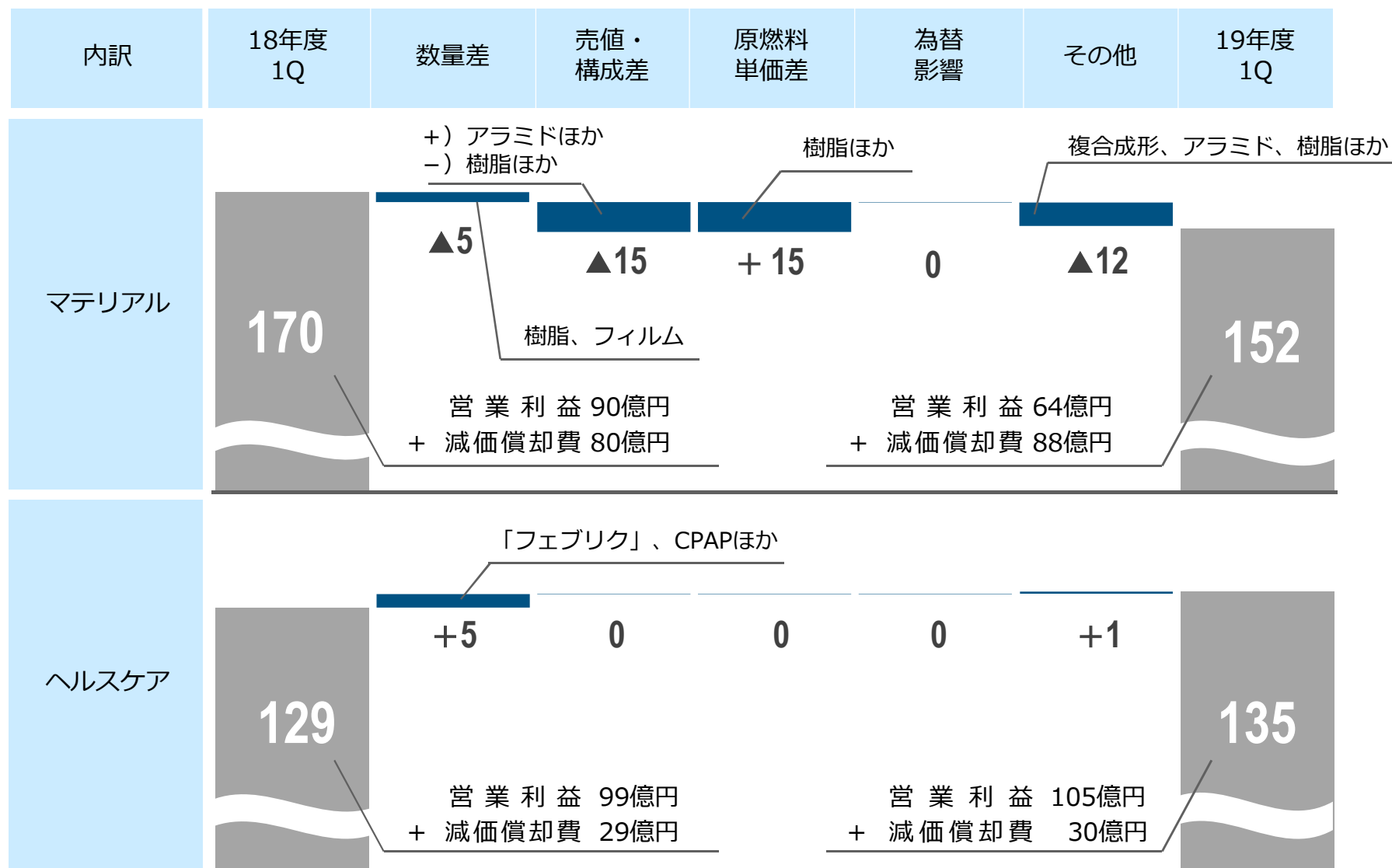
アラミド繊維と国内ヘルスケア事業が堅調であった一方、樹脂においてポリカーボネートの市況が大幅に悪化した影響もありEBITDAは横ばい



\* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む) 」にて算出

◆ セグメント別 EBITDA\*増減内訳 (前年同期対比)

(億円)



\* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む) 」にて算出

## 2. 2019年度 業績見通しの概要

## 業績指標

- ROE 10%以上、営業利益ROIC 8%以上 という中期目標は達成見込み
- EBITDA 中期目標は未達見通しだが、達成の努力継続

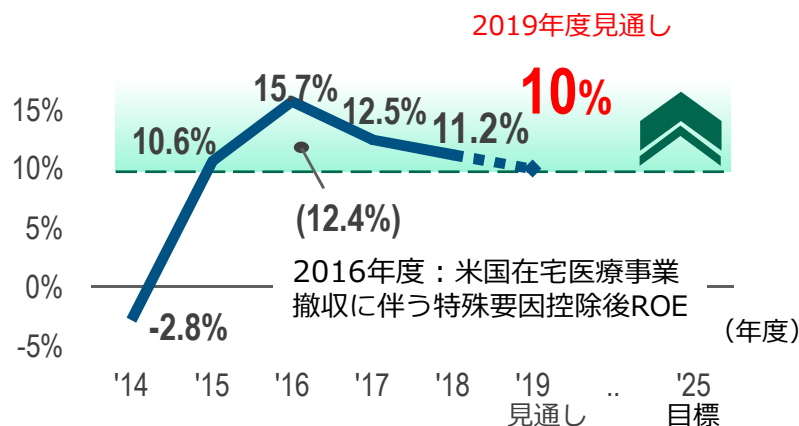
中期目標

ROE\*1 **10%以上**

中期目標

EBITDA\*3 2019年度 **1,200億円超**  
2025年度 **2,000億円超**

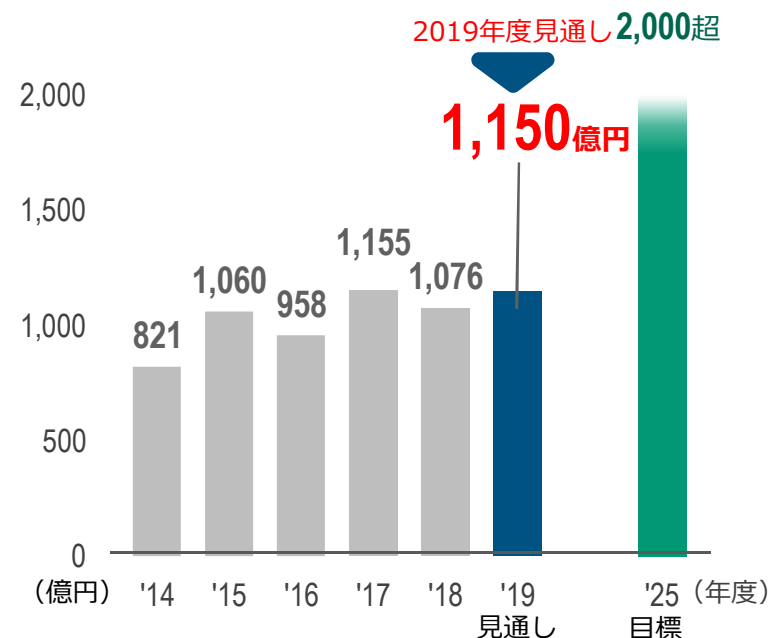
推移



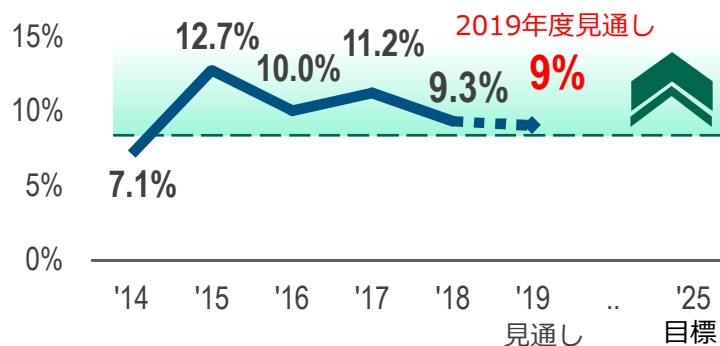
中期目標

営業利益ROIC\*2 **8%以上**

推移



推移



\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷投下資本\*」にて算出

\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金

\*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

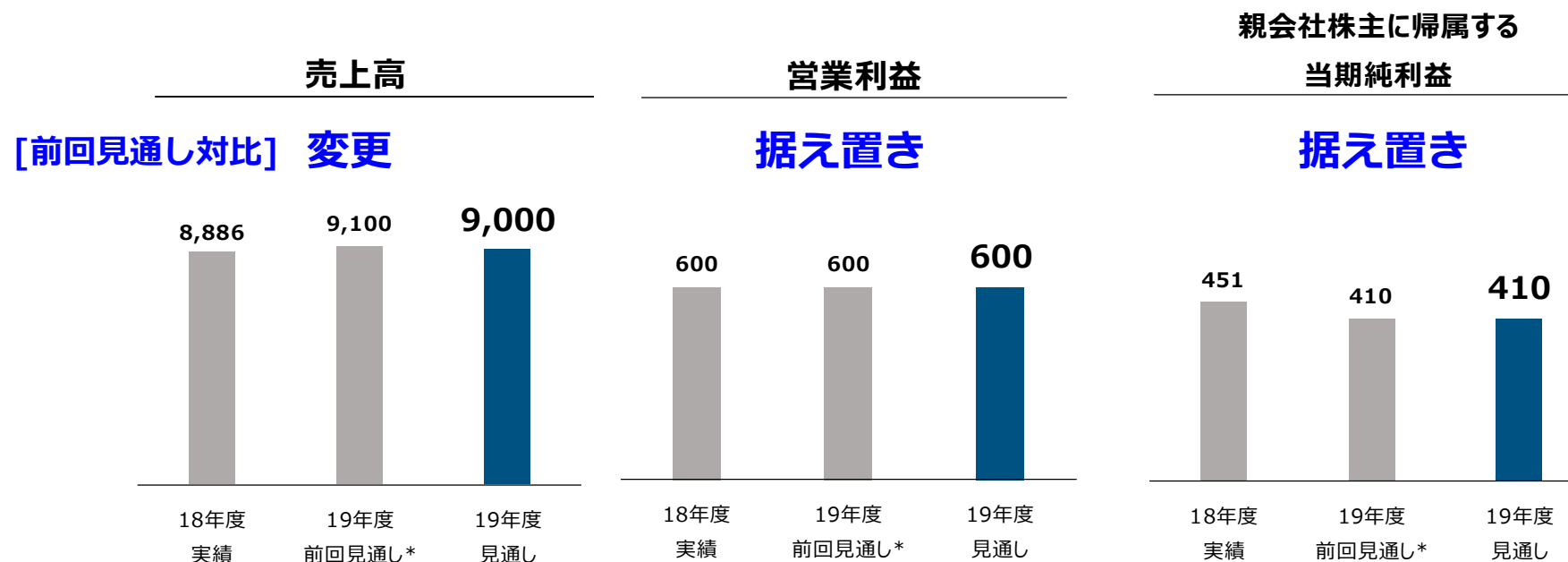


## ■ 2019年度業績見通し

### ✓ 売上高を変更、営業利益は据え置き

- 売上高は、フィルム事業会社譲渡（10月1日予定）および為替レート前提見直し等を反映し、年間見通しを9,100億円から9,000億円に変更
- 営業利益・当期純利益の年間見通しは据え置き

（単位：億円）



#### ◇前提条件

	18年度実績	19年度前回見通し*	19年度見通し	差異 (前回見通し対比)
通期平均為替レート 円/米ドル	111	110	108	-2
円/ユーロ	128	125	123	-2
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	69	65	65	0

\* 前回見通しは2019年5月9日公表

## 発展戦略 (新規事業)

- ・モビリティ分野で着実なプロジェクトの進展
- ・医材融合・最先端医療の研究開発を推進

### マテリアル領域



#### ・米GMの新型車種に「Sereebo」採用

「Sereebo」は自動車部品など量産対応を可能にした熱可塑性炭素繊維複合材料(CFRTP)。製造タクトタイムは約1分(世界初)

#### ・Benet Automotive社 (チェコ) の買収

Tier1サプライヤーとして、  
自動車向け複合成形材料事業の欧州展開を加速

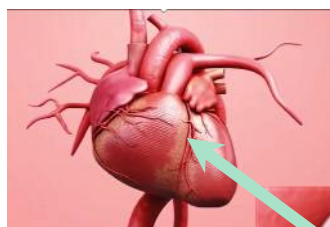
#### ・中国JMC\*1の新型車種にCSP-Victall\*2のコンポジット部品が採用

中国初のコンポジット製ピックアップボックスでスチール製に比べ  
軽量性、耐腐食性、耐衝撃性に優れ、部材点数削減でコスト効率向上

\*1 JMC: 江鈴汽車股份有限公司 (本社: 中国・南昌市)

\*2 CSP-Victall: 米国コンチネンタル・ストラクチャル・プラスチック社の中国合併会社 (本社: 中国・唐山市)

### ヘルスケア領域



#### ・心・血管修復パッチ (OFT-G1) の臨床試験を開始

OFT-G1は、先天性心疾患向けに開発を進めている医療材料。  
大阪医科大学の心臓血管手術の知見と、福井経編興業株式会社の経編技術、  
帝人のポリマー解析技術により創出

#### ・AMED\*とフレイル創薬の委託研究開発契約を締結

フレイルは、加齢に伴うストレス回復力が低下した状態、要介護に至る前  
段階として位置づけ。健康長寿社会の実現に向けて、帝人は世界初となる  
フレイルの予防薬・治療薬の開発に取り組む

\*AMED: 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

### 3. 参考資料

## ◆ 連結損益計算書

	18年度				19年度	(億円) 差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	19/1Q -18/1Q
売上高	2,164	2,230	2,202	2,289	2,146	-18
売上原価	1,477	1,556	1,564	1,610	1,470	-7
売上総利益	687	674	638	679	677	-11
販管費	505	494	519	560	507	+2
営業利益	183	179	119	119	170	-13
営業外損益	29	6	-4	-29	-1	-30
（内 金融収支）	6	-6	1	-4	-1	-7
（内 持分法投資損益）	3	11	2	-12	4	+1
経常利益	212	186	115	90	169	-43
特別損益	49	-13	-6	-29	-18	-67
税金等調整前四半期純利益	261	173	109	61	151	-110
法人税等	64	24	37	11	40	-24
非支配株主に帰属する 四半期純利益	2	5	4	7	3	+1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	195	144	68	43	108	-87

## ◆ 連結貸借対照表

	17年度				18年度				(億円) 19年度
	6月末	9月末	12月末	3月末*	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末
資産									
流動資産	4,736	4,595	4,755	4,779	5,205	5,465	5,227	5,239	5,116
固定資産	4,987	4,943	5,031	5,041	5,076	5,063	4,930	4,968	4,910
合計	9,723	9,538	9,786	9,820	10,281	10,528	10,157	10,207	10,026
負債・純資産									
負債	5,966	5,560	5,673	5,737	6,047	6,193	5,860	5,934	5,860
(内 有利子負債)	3,862	3,411	3,475	3,442	3,852	4,007	3,740	3,692	3,743
純資産	3,757	3,978	4,113	4,082	4,234	4,335	4,297	4,272	4,166
合計	9,723	9,538	9,786	9,820	10,281	10,528	10,157	10,207	10,026

\* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を18年度から適用しており、2017年度末（2018年3月末）については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

### 3. 参考資料（見通し）

#### ◆ 通期業績見通しの概況

(億円)	18年度	19年度	差異	増減率	19年度	前回見通し
	実績	見通し			前回見通し <sup>*5</sup>	との差異
売上高	8,886	9,000	+114	+1.3%	9,100	-100
営業利益	600	600	0	0.0%	600	0
経常利益	603	600	-3	-0.4%	600	0
親会社株主に帰属する当期純利益	451	410	-41	-9.0%	410	0
ROE <sup>*1</sup>	11.2%	10%	-1%		10%	0%
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	9.3%	9%	-0%		9%	0%
EBITDA <sup>*3</sup>	1,076	1,150	+74		1,150	0
フリー・キャッシュ・フロー	396	150	-246		50	+100
設備投資 <sup>*4</sup>	628	700	+72		700	0
減価償却費	476	550	+74		550	0
研究開発費	364	380	+16		380	0
◇前提条件						
通期平均為替レート	円/米ドル	111	108	-3	110	-2
	円/ユーロ	128	123	-5	125	-2
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	69	65	-4		65	0

- \*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出  
 \*2 「営業利益÷投下資本<sup>\*</sup>」にて算出 \* 純資産+有利子負債-現金及び預金  
 \*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出  
 \*4 設備投資には無形固定資産を含む  
 \*5 前回見通しは2019年5月9日公表

2019年度 配当金見通し (前回見通しから変更なし)

中間 30円/株 期末 30円/株 年間 60円/株

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益推移

(億円)

	18年度 実績	19年度 見通し	差異	増減率	19年度 前回見通し*	前回見通し との差異	増減率
売上高							
マテリアル事業	2,639	2,520	-119	-4.5%	2,620	-100	-3.8%
繊維・製品事業	3,183	3,400	+217	+6.8%	3,400	0	0.0%
複合成形材料事業ほか	894	940	+46	+5.2%	940	0	0.0%
マテリアル 計	6,716	6,860	+144	+2.2%	6,960	-100	-1.4%
ヘルスケア	1,575	1,500	-75	-4.8%	1,500	0	0.0%
その他	595	640	+45	+7.5%	640	0	0.0%
合計	8,886	9,000	+114	+1.3%	9,100	-100	-1.1%
営業利益							
マテリアル	235	285	+50	+21.3%	285	0	0.0%
ヘルスケア	355	310	-45	-12.6%	310	0	0.0%
その他	72	75	+3	+4.7%	75	0	0.0%
消去又は全社	-61	-70	-9	-	-70	0	-
合計	600	600	0	0.0%	600	0	0.0%

\* 前回見通しは2019年5月9日公表

## ◆ セグメント別 経営指標

	18年度 実績	19年度 見通し	差異	(億円)	
				19年度 前回見通し*1	前回見通し との差異
EBITDA*2					
マテリアル	564	690	+126	690	0
ヘルスケア	473	435	-38	435	0
その他	100	105	+5	105	0
消去又は全社	-61	-80	-19	-80	0
<b>合計</b>	<b>1,076</b>	<b>1,150</b>	<b>+74</b>	<b>1,150</b>	<b>0</b>
					(%)
営業利益ROIC*3					
マテリアル	5%	6%	+1%	6%	0%
ヘルスケア	35%	34%	-1%	34%	0%
<b>合計</b>	<b>9%</b>	<b>9%</b>	<b>-0%</b>	<b>9%</b>	<b>0%</b>

\*1 前回見通しは2019年5月9日公表

\*2 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

\*3 「営業利益÷投下資本\*」にて算出 \*投下資本 = 純資産+有利子負債-現金及び預金



## ◆ セグメント別 売上高・営業利益推移（前期対比）

（億円）

	18年度実績			19年度見通し			差異		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高									
マテリアル事業	1,344	1,295	2,639	1,295	1,225	2,520	-49	-70	-119
繊維・製品事業	1,540	1,643	3,183	1,650	1,750	3,400	+110	+107	+217
複合成形材料事業ほか	436	458	894	455	485	940	+19	+27	+46
マテリアル 計	3,320	3,396	6,716	3,400	3,460	6,860	+80	+64	+144
ヘルスケア	804	771	1,575	760	740	1,500	-44	-31	-75
その他	270	325	595	300	340	640	+30	+15	+45
合計	4,394	4,492	8,886	4,460	4,540	9,000	+66	+48	+114
営業利益									
マテリアル	146	89	235	140	145	285	-6	+56	+50
ヘルスケア	219	136	355	185	125	310	-34	-11	-45
その他	26	46	72	25	50	75	-1	+4	+3
消去又は全社	-28	-33	-61	-30	-40	-70	-2	-7	-9
合計	362	238	600	320	280	600	-42	+42	0

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益推移（前回見通し\*対比）

(億円)

	19年度前回見通し*			19年度見通し			差異		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高									
マテリアル事業	1,295	1,325	2,620	1,295	1,225	2,520	0	-100	-100
繊維・製品事業	1,650	1,750	3,400	1,650	1,750	3,400	0	0	0
複合成形材料事業ほか	455	485	940	455	485	940	0	0	0
マテリアル 計	3,400	3,560	6,960	3,400	3,460	6,860	0	-100	-100
ヘルスケア	760	740	1,500	760	740	1,500	0	0	0
その他	300	340	640	300	340	640	0	0	0
合計	4,460	4,640	9,100	4,460	4,540	9,000	0	-100	-100
営業利益									
マテリアル	130	155	285	140	145	285	+10	-10	0
ヘルスケア	175	135	310	185	125	310	+10	-10	0
その他	25	50	75	25	50	75	0	0	0
消去又は全社	-30	-40	-70	-30	-40	-70	0	0	0
合計	300	300	600	320	280	600	+20	-20	0

\* 前回見通しは2019年5月9日公表

## ◆ 主要経営指標推移

	15年度 実績	16年度 実績	17年度 実績 <sup>*6</sup>	18年度 実績	19年度 見通し
ROE <sup>*1</sup>	10.6%	15.7%	12.5%	11.2%	10%
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	12.7%	10.0%	11.2%	9.3%	9%
EBITDA <sup>*3</sup> (億円)	1,060	958	1,155	1,076	1,150
1株当たり当期純利益 (円) <sup>*4</sup>	158.1	254.9	231.3	232.4	213.7
1株当たり配当金 (円) <sup>*4</sup>	35	55	60	70 <sup>*</sup>	60
総資産 (億円)	8,234	9,641	9,820	10,207	10,700
有利子負債 (億円)	3,033	3,762	3,442	3,692	3,800
D/Eレシオ <sup>*5</sup>	1.01	1.11	0.88	0.90	0.9
自己資本比率	36.4%	35.1%	40.0%	40.2%	41%

\*100周年記念配当10円/株を含む

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷投下資本<sup>\*</sup>」にて算出

\*純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金

\*3 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出

\*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

\*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

\*6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

フィルム事業会社の株式譲渡について（2019年5月22日発表）

## フィルム事業の連結子会社2社の株式譲渡契約を東洋紡株式会社と締結

### 譲渡内容

- ・ 帝人フィルムソリューション株式会社（18年12月期売上高：261億円）
- ・ P.T. Indonesia Teijin Film Solutions（18年12月期売上高：25百万米ドル）
- ・ 譲渡価額：約100億円（譲渡日までに所定の調整が加わり、確定予定）

### スケジュール

- ・ 契約締結日 2019年5月22日
- ・ 譲渡予定日 2019年10月1日

### 狙い

- ・ フィルム事業会社2社の更なる成長
- ・ 長期ビジョン実現に向けた帝人グループの経営資源の最適配分

## ◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	18年度					19年度 1Q
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	87	87	102	82	358	99
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	26	25	27	22	100	25
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	5	4	4	4	17	4
ベニロン®	重症感染症治療剤	13	13	14	12	53	16
ムコソルバン®	去痰剤	10	10	12	9	41	9
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、 瘰・神経内分泌腫瘍治療剤	8	9	10	10	37	11
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	6	4	20	6
ラキソベロン®	緩下剤	4	3	3	3	13	3
トライコア®	高脂血症治療剤	3	2	2	1	8	1
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	11	3

\*1 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp. (米)の登録商標です。

\*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

## ◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2019年6月末現在)

\* 承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階			
	Phase II	Phase III	承認申請	承認/ <sup>*</sup> 新規上市
骨・関節 領域	KTP-001	ITM-058 NT 201		
呼吸器 領域	PTR-36			
代謝・循環器 領域	TCF-12 TMX-049 TMX-049DN TMX-67HK <sup>*1</sup>	ITM-014T		TMX-67 (中国) <sup>*2</sup> STM-279 <sup>*3</sup>
その他	JTR-161 <sup>*4</sup>	GGs-MPA <sup>*5</sup>	GGs-CIDP <sup>*5</sup> GGs-ON <sup>*5</sup>	

\*1 2018年7月フェブリク<sup>®</sup>の痛風、高尿酸血症の小児患者への適応拡大に向けた第II相試験に着手

\*2 2018年9月に中国で「痛風患者における高尿酸血症治療」に対する適応の承認を取得

\*3 2019年3月に「アデノシンデアミナーゼ欠損症」に対する製造販売承認を取得

\*4 2018年10月 急性期脳梗塞の適応取得に向けた第I/II相試験に着手

\*5 ペニロン<sup>®</sup>の適応拡大として開発中

## ◆ 新規開発医薬品 (2019年6月末現在)

## 【承認/新規上市】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67 (フェブキソスタット)	痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかった患者へも使用が可能である。	錠剤	共同開発： アステラス製薬 (中国) 有限公司 2018年9月承認取得
STM-279 (エラペグアダマラーゼ (遺伝子組換え))	ADA (アデノシン・デアミンナーゼ) 欠損症	本剤 (ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体) は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症 (SCID) の発症を回避することが期待される。	注射	導入： 英リーディアント社 2019年3月承認取得

## 【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2018年9月承認申請
GGs-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2019年3月承認申請

## ◆ 新規開発医薬品 (2019年6月末現在)

## 【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058 (アバロパラチド酢酸塩)	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性（高カルシウム血症のリスク低減）が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社
NT 201 (インコボツリヌストキシンA)	上肢・下肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、上肢・下肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社
ITM-014T (ランレオチド酢酸塩)	甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導（直接的作用）や細胞栄養因子の分泌制御（間接的作用）を介した作用により、甲状腺機能の正常化が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加)
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害（多発性単神経炎）を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加)



## ◆ 新規開発医薬品 (2019年6月末現在)

## 【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素（マトリックスメタロプロテアーゼ）と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。	注射	発明者： 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発：化血研
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序（CRTh2拮抗作用）によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果（軽症患者）や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果（軽症～重症の患者）が期待される。	錠剤	導入： 英プルマジェン・セラピューティクス（アズマ）リミテッド社
TCF-12	慢性腎臓病	繊維状吸着炭であり、尿毒素に対する高い吸着能力から、慢性腎臓病（進行性）における尿毒症症状の改善及び末期腎不全（ESRD）発症の遅延、並びに用量低減による服薬アドヒアランスの向上が期待される。	カプセル剤	自社開発品
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049DN	2型糖尿病における糖尿病性腎臓病	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品

## ◆ 新規開発医薬品 (2019年6月末現在)

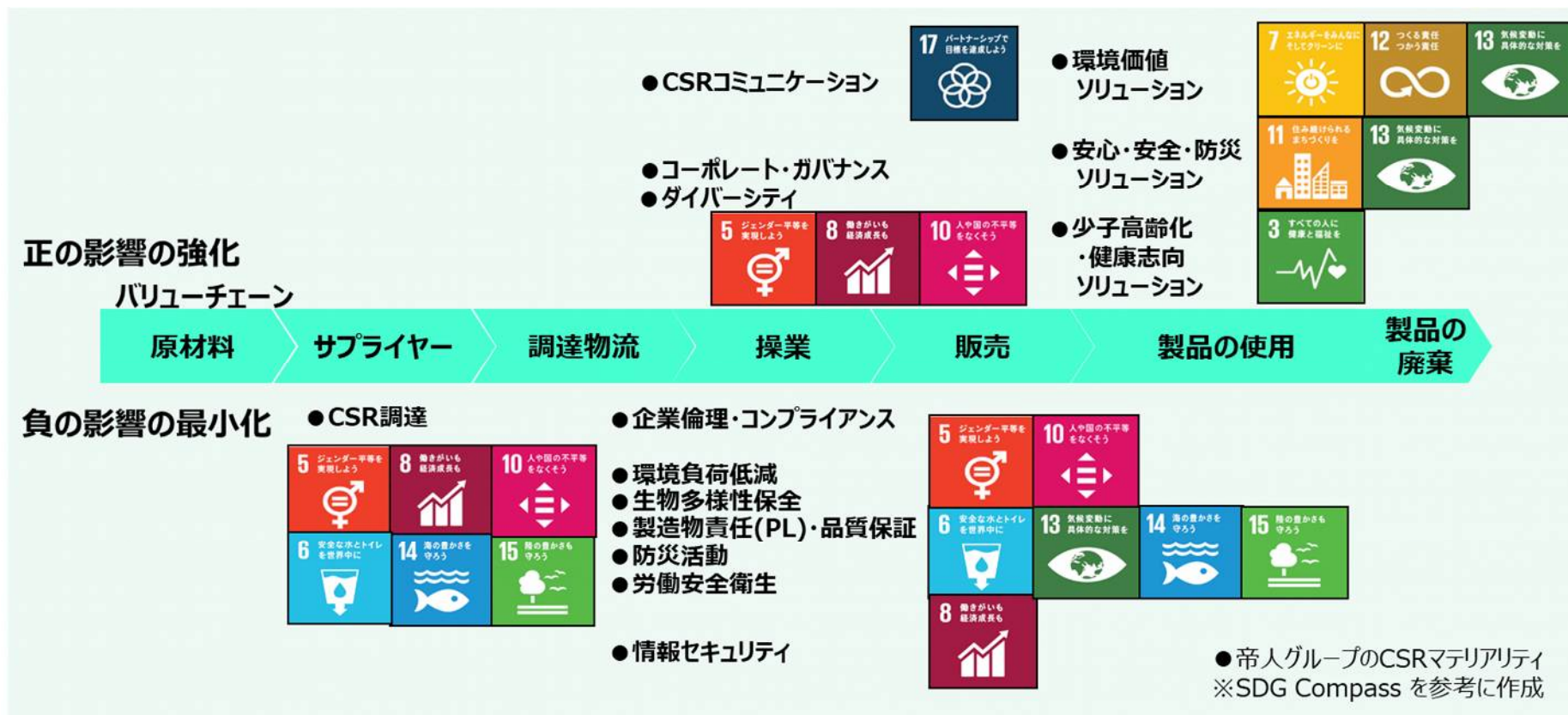
## 【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67HK (フェブキソスタット)	小児の痛風・高尿酸血症	痛風・高尿酸血症の小児患者に対する、フェブリク®の適切な用法・用量を設定する。 本剤の強力な尿酸生成抑制効果により、小児患者の血清尿酸値を適正な値に改善・維持することが期待される。	錠剤	自社開発品
JTR-161	急性期脳梗塞	健康な日本人の抜歯体から単離した歯髓由来細胞を原材料とする他家ヒト細胞加工製品。骨髄などに比べて細胞採取時の侵襲性が低く、国内で細胞ソースが調達できることが特徴。 免疫調整因子産生による炎症抑制、栄養因子産生による臓器保護・再生促進などの効果が期待される。	注射	共同開発： JCRファーマ社

# 非財務情報

## 帝人グループのCSRマテリアリティとSDGs

帝人グループでは、CSRマテリアリティ（重要課題）の特定にあたり、SDGs が示す社会課題を参照し、グローバルレベルで積極的に取り組んでいます



## SDGsに向けた帝人グループの取り組み

### ＜重点領域と製品・サービス＞

<p>環境価値 ソリューション</p>  <p>マルチマテリアルによる 軽量化素材・部材</p>	<p>安心・安全・防災 ソリューション</p>  <p>超軽量天井材 「かるてん」</p>	<p>少子高齢化・ 健康志向 ソリューション</p>  <p>地域包括ケアシステム 「バイタルリンク」</p>
---	--	---



### ＜トピックス＞

#### 「TCFDコンソーシアム」に参画



帝人グループは、事業活動が環境に及ぼす影響を認識し、さまざまな解決策に向けた成果を積み重ねながら、事業を通じて「低炭素社会への貢献」「循環型社会への貢献」「地球環境が守られる社会への貢献」に挑戦を続けています。

こうしたなか、2019年3月に、金融安定理事会により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言を支持することを表明し、気候変動が帝人グループの事業に与えるリスクや機会についての情報開示を拡充に努めています。

また、2019年5月27日に、TCFD提言に賛同する企業や金融機関などが一体となって「TCFDコンソーシアム\*」が設立されました。このコンソーシアムは、企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関等の適切な投資判断に繋げるための取り組みについて議論する場です。帝人グループもこれに参画しています。

\*「TCFDコンソーシアムが設立されます」（経済産業省HP）  
<https://www.meti.go.jp/press/2019/05/20190521003/20190521003.html>

## GPIFの4つのESG指数全ての構成銘柄に採用

帝人は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の運用にあたって選定する「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」の4つの指数全ての構成銘柄となっています。



## ESG関係に優れている株式銘柄として3つのプログラムに選定

（経済産業省と東京証券取引所との共同主催）

「なでしこ」  
女性活躍推進



「ホワイト500」  
健康経営推進



「攻めのIT経営」  
IT活用推進



***TEIJIN***

*Human Chemistry, Human Solutions*